

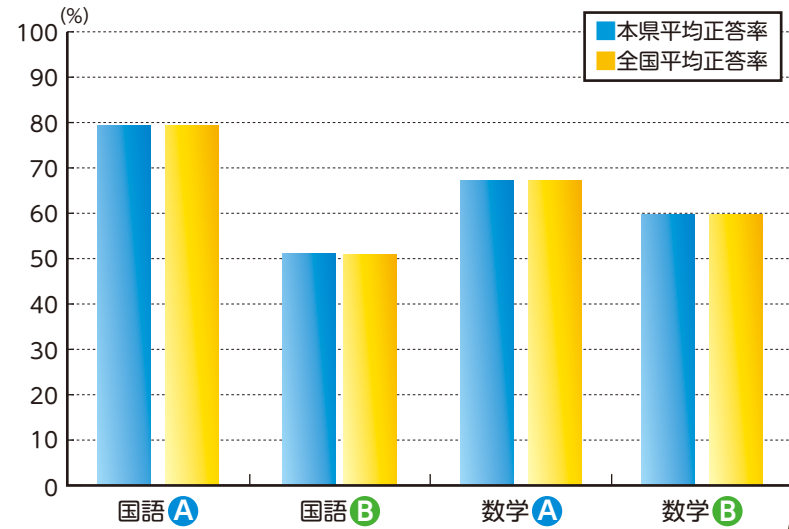
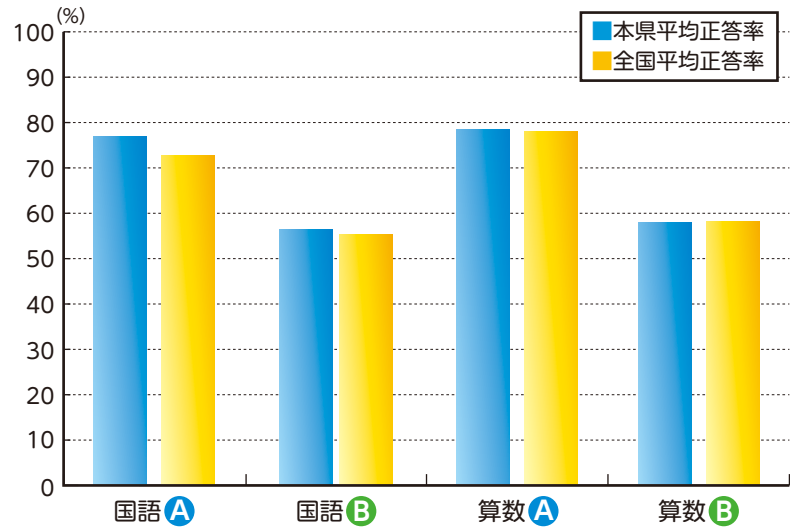
# 平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果

## 教科の調査 国語、算数、数学

A 知識を問う問題  
B 知識をもとに活用する力を問う問題

小学校6年生	国語A	国語B	算数A	算数B
本県平均正答率	77.0	56.5	78.6	58.1
全国平均正答率	72.9	55.5	78.1	58.2

中学校3年生	国語A	国語B	数学A	数学B
本県平均正答率	79.5	51.2	67.4	59.7
全国平均正答率	79.4	51.0	67.4	59.8

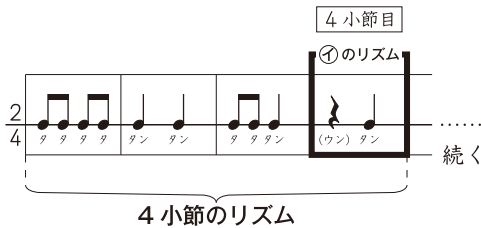
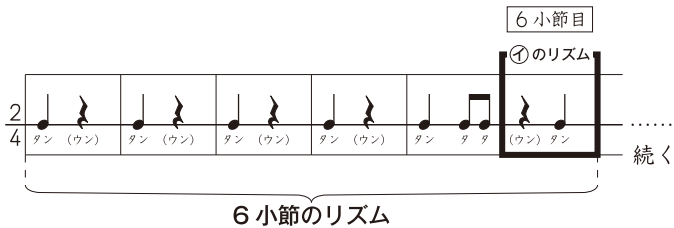


小学校の国語A(主に知識に関する問題)の平均正答率が、全国平均を大きく(4.1ポイント)上回りました。それ以外の教科は、小学校、中学校とも全国平均と大きな差はみられません。しかし、児童生徒質問紙において、算数・数学に関する項目については、「算数(数学)の勉強は好き」などの項目が全国平均を下回っていました。また、小学校の算数Bでは、「二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する」問題等に課題が見られました。

## 本年度調査問題 算数Bから

### 問題

けい子さんは、カスタネットで下の6小節のリズムを何回かくり返します。  
けい子さんの6小節目とまさるさんの4小節目は、同じ①のリズムです。



けい子さんとまさるさんは、同時に演奏を始めました。  
すると、12小節目に2人の①のリズムが重なりました。  
2人の①のリズムが重なる12小節目の「12」は、どのような数ですか。言葉と「4」と「6」の数を使って書きましょう。

ここでは12が4と6に共通な倍数であることから公倍数や最小公倍数という用語を用いて整数の性質を表現することが必要になります。



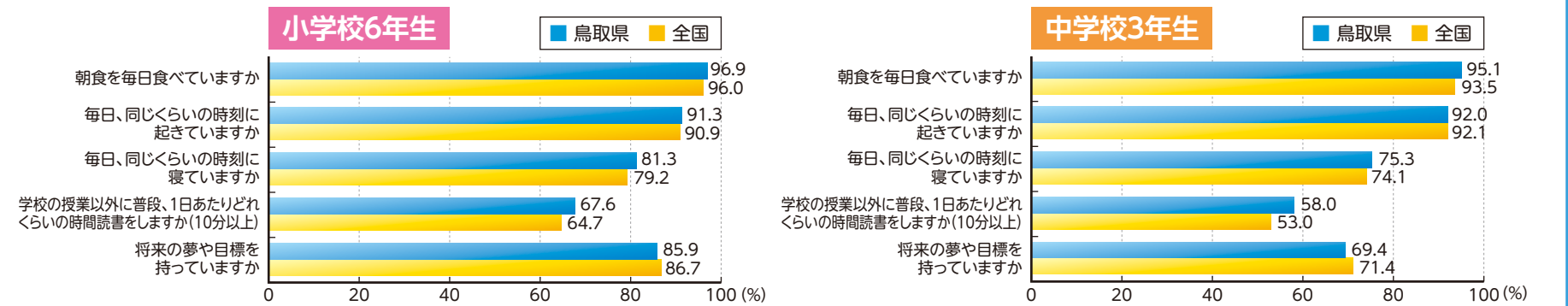
この問題は、二人のリズムが重なる部分を、公倍数(4の倍数にも、6の倍数にもなっている数)に着目して記述できるかどうかをみる問題です。無解答率も11%(約10人に1人は無解答)となっており、算数の用語を用いて事象の関係を理解したり、適切に表現したりすることに課題が見られます。

約数、倍数に限らず、算数で学習したことが生活や学習の様々な場面で活用されることによって、意味あるものとなり、算数のよさを感じ、より理解を深めることができます。ご家庭でも、子どもたちと算数の話をたくさんして、生活の中にどのように生かされているか話をしてみませんか。

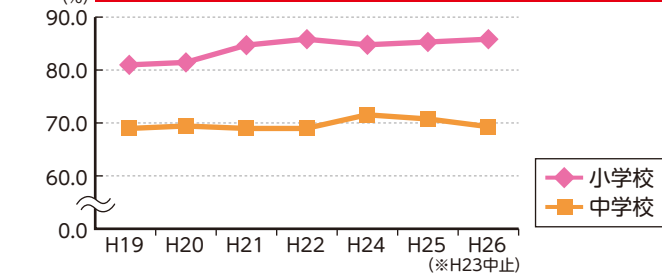
【正答例】12は、4と6の最小公倍数(公倍数のうち、いちばん小さい公倍数)です。

## 質問紙調査から

### 心と体のいきいき度

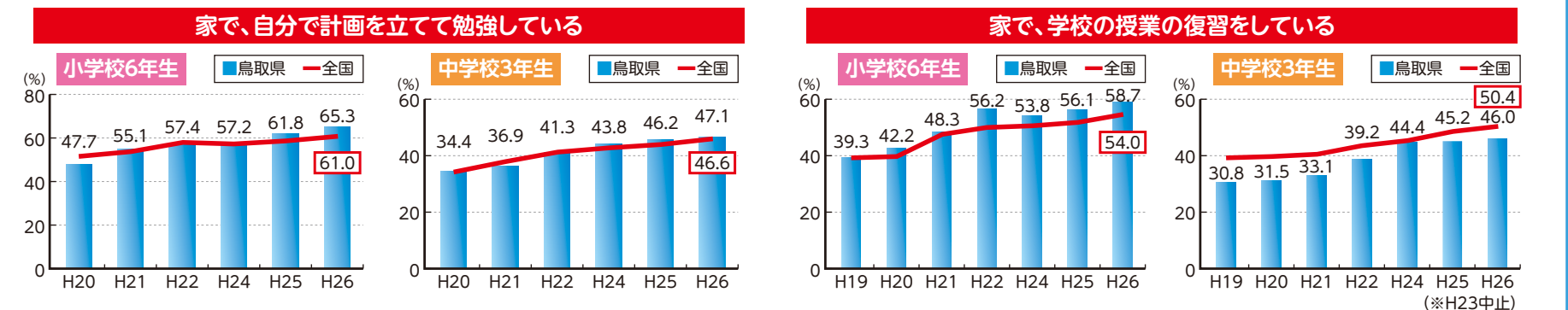


### 将来の夢や目標を持っていますか(肯定的回答)



朝食の摂取、起床・就寝の時刻、読書習慣など、生活習慣の定着を問う質問では、小学校6年生も中学校3年生も肯定的な回答が全国並み、又はそれ以上の結果でした。しかし、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では、全国を下回っています。経年変化を見ると、小学校6年生では、増加傾向ですが、中学校では近年、減少傾向です。子どもたちが夢や目標を持つことができる学校・家庭・地域・社会づくりが求められているのではないのでしょうか。大人が夢を語り、目標に向かって生きる姿を、未来を担う子どもたちに見せることが必要なのかもしれません。

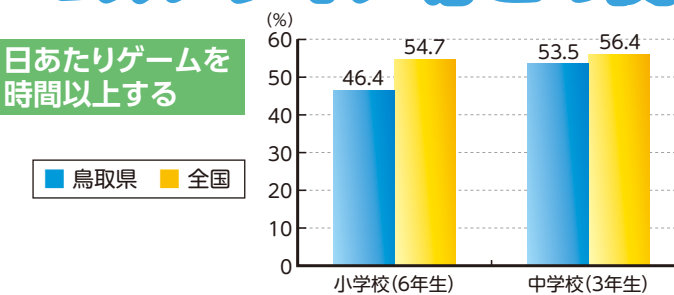
## 学習習慣(計画・復習)



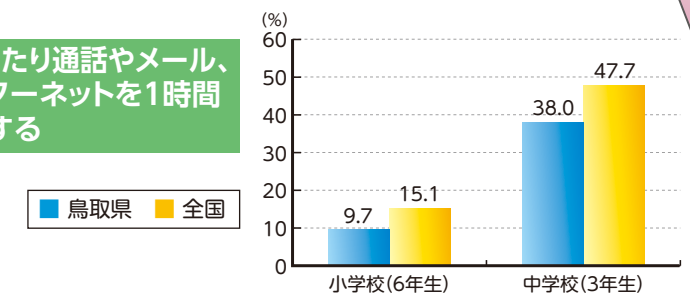
「家で自分で計画を立てて勉強している」という質問に、平成26年度の本県児童生徒の肯定的な回答(「している」と「どちらかというとしている」を合わせたもの)は、小学校6年生で65.3%(全国61.0%)、中学校3年生で47.1%(全国46.6%)。また、「家で、学校の授業の復習をしている」という質問に、肯定的な回答は、小学校6年生で58.7%(全国54.0%)、中学校3年生で46.0%(全国50.4%)でした。調査が始まった頃と比較すると、「自分で計画を立てて勉強をする」「復習をする」児童生徒が年々増えてきましたが、中学3年生では、復習については、全国に比べて十分に取組みしていないことがわかります。

## ゲーム、メディア等との関わり

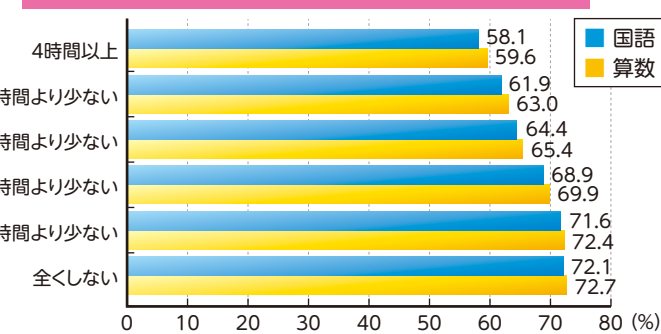
### 1日あたりゲームを1時間以上する



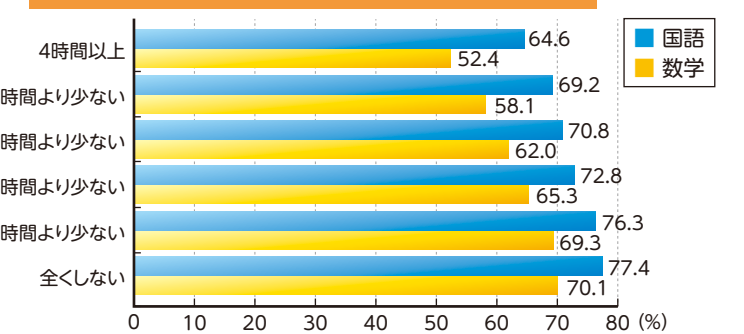
### 1日あたり通話やメール、インターネットを1時間以上する



### ゲーム時間と平均正答率(小学校6年生)



### ゲーム時間と平均正答率(中学校3年生)



1日あたりのゲーム時間やメール、インターネット等の利用時間を全国と比較すると、鳥取県の小学校6年生、中学校3年生とも全国平均を下回っています。しかし、「1日あたりの通話やメール、インターネットの利用」では、中学校3年生は小学校6年生の9.7%から約4倍の38.0%になっており、急激に数値が増えています。一方、ゲーム時間と平均正答率との相関を見ると、小学校6年生、中学校3年生とも時間の増加に伴い正答率が下がるという結果が出ています。このような結果を踏まえ、各家庭でゲームやメディア等とのつきあい方を今一度考えてみてください。